

国立大学法人島根大学

教育学部後援会誌

創刊号
平成17年3月

ごあいさつ

教育学部後援会 会長 山崎 敦史



「先生もいいな！」3週間の小学校での教育実習を終えた娘が、学級でのお別れ会でもらった子どもたちからの手紙を読みながらつぶやきました。教員になる思いを少しだけ持ちながら生涯学習課程に入学した娘ですが、子どもたちと生活し、仲間と共に学んだ教育実習は、先生という職業のよさを感じ、自分の進路を考える貴重な体験となったようです。痛ましい少年による犯罪、幼児虐待など、悲しい事件が毎日のように報じられるこの頃ですが、子どもたちと直に接し「教える」経験をさせていただく教育実習の大切さを感じた次第です。

今年度、島根大学教育学部後援会の会長を務めさせて頂くことになりました。副会長をはじめ、役員の皆様や会員の皆様のお力をお借りして、会長として重責を精一杯果たしたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。島根大学は、昨年度島根医科大学と統合するとともに、今年度独立行政法人として新たなスタートを切りました。さらに教育学部は、鳥取大学教育学部と統合、山陰でただ一つの教員養成を担う学部として再出発いたしました。これから、山陰地方の教育研究、教員養成の拠点として充実発展することを願っているところです。

本後援会は、「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部に協力すること」を目的として昭和27年から今日まで、多くの諸先輩方、学部の教職員の皆様に支えられ運営されてきています。具体的には、教育実習や採用試験対策等の進路指導等に関わる経費、交流協定大学との交流経費などの支援を行っております。独立行政法人化に伴う経費削減の状況から、本後援会の重要性は増してきていると言えます。ところが、近年、後援会に加入される方が少しずつ減少してきています。今年度は、昨年度に比べ入学者数に対する加入者の割合が少し上がりましたが、まだ5割を下回っている状況です。加入率をさらに高め、教育学部の教育活動をより確かに支援していかなければなりません。

多くの皆様に後援会の活動に対するご理解とご協力をいたるために、今年度より教育学部後援会誌を発行することにしました。会員の皆様に後援会の活動内容等をお知らせするとともに、会員の勧誘に役立てたいと考えています。今後とも、島根大学教育学部が山陰地方の教育研究の中核となり、優秀な教員を育てていくことができるよう、本後援会といたしましても応援していきたいと考えております。ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



後援会は、みんなの会費で運営されています お子様の大学生活を支援する後援会に是非御加入下さい

☆会費(学部学生4万円・大学院生1万5千円)の納入は、入学手続きの際に配布した封筒に同封しました「振込依頼書」をご利用下さい。

☆会費納入口座は、「山陰合同銀行島大前支店(普)2702605 島根大学教育学部後援会」です。

☆お問い合わせは、後援会事務局(TEL.0852-32-6251 教育学部総務係)までお願いいたします。

(メールでのお問い合わせは、koho@edu.shimane-u.ac.jpまで)

教育学部ホームページのURLは <http://www.edu.shimane-u.ac.jp>

教育学部後援会員の皆さんには、ますます健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平素は教育学部の発展について、格別のご理解とご支援を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。私は、教育学部長の山下政俊と申します。この度、教育学部の後援会誌を発行することになり、後援会に入会されている保護者の方々に、この誌上をお借りしてご挨拶の機会の持てますことをとても喜んでおります。

現在、お子様の通学されている本学部は、平成15年10月に旧島根医科大学と統合して新島根大学の教育学部となり、さらに平成16年4月からは、それまで国立大学であった全国の他大学と同様法人化され、国立大学法人島根大学の教育学部となりました。さらに同じ16年4月からは、当時の鳥取大学教育地域科学部との再編により、山陰地域における教員養成の基幹校として全国で唯一となる教員養成に特化した学部になりました。

教員養成に特化した再編・改組により本学部は、①教師教育カリキュラムの全面的な見直し、②多様な子ども体験・社会体験・学校体験・臨床体験（1000時間体験学修）のプログラム化、③教員研究組織（講座）の再編、④教育支援センターの設置、⑤現職学校教員の任用システムの構築、⑥山陰両県教育委員会との連携システムの構築などを行い、教員養成として学生の皆さんに対する21世紀の教育課題に果敢に取り組める高度で実践的な力量の形成を旨とする新しい学部づくりに邁進しているところです。これらは、これまで学部が積み重ねてきた教育や研究の成果に基づきながらも、再編・改組を契機に大胆に変化・発展させたものです。そこに新しい学部の大きな特徴があり、全国の教育大学・教育学部からも注目されています。

わたしたちは、新たにパワーアップした学部の諸力や諸能力を1年の学生の皆さんには当然のことながら、2年から4年次生の学生の皆さんにも提供・プラスしてその力量アップに資したいと考え、それに向けて指導支援しているところです。こうして本学部に在籍するあらゆる学生の皆さんの教育に、私たちは全力を傾注しています。

これまで後援会には、学生の皆さんの学校教育実習、保育所実習、福祉施設実習、採用試験や就職試験対策、交流協定大学との交流事業、学部の主催する事業などに対していつもご理解とご支援を頂いております。法人化された大学の学部として私たちは、文部科学省から頂く運営交付金を元に学生の皆さんの教育や活動を支援しておりますが、残念ながらその範囲や能力には限界があります。どうかこのご事情をご理解して頂き、学生の皆さんの教育活動支援、学部の発展のための諸事業に今後ともご支援を頂きますと共に、未加入の保護者の皆さんには後援会へのご加入を切にお願いするものです。

平成16年度に実施した主な事業はつきのとおりです。

1 学生の課外活動支援

部活動、大学祭等の資金援助のほか中四国大学学生交流経費の一部を補助しました。

2 教育実習支援

副免取得を希望する学生の教育実習経費に補助をしました。

3 国際交流支援

韓国、中国の交流大学への学生派遣、教員派遣経費の一部を補助しました。

4 広報事業

今年から「機関誌」を発行し、教育学部の教育・研究活動、学生の皆さんの活躍をお知らせすることにしました。

5 教育環境整備支援

教育学部の教育環境の改善を図る経費を補助しました。今年は、学部玄関に花壇を設置しました。

6 就職支援

就職情報の収集、就職先の開拓等、学生の就職活動を支援する活動に補助しました。



後援会支援により
学部玄関の花壇が
整備されました

山陰地域における教員養成基幹学部＝島根大学教育学部の誕生

島根大学教育学部は、平成16年度から「国立大学法人 島根大学教育学部」になりました。このことは単なる名称の変更ではなく、従来の教育学部を一新して、山陰地域の教員養成の中核学部を創造する試みです。新生教育学部の誕生とその内容を特集します。

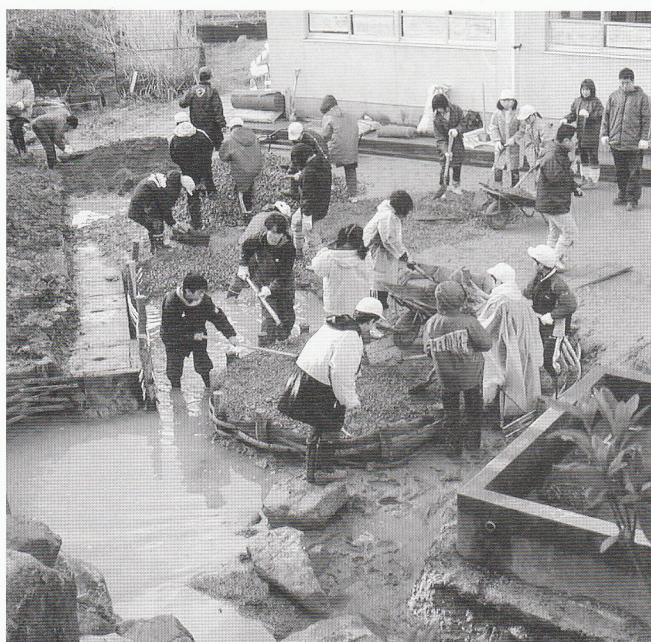
特徴的な学修システム

■〈主専攻・副専攻〉方式学修システム

「専門科学教育科目」、「教科教育学」、「教科内容構成研究」に「卒業研究」を加えた11のパッケージ型カリキュラム（専攻）を設定しています。これらの専攻の中から一つの主専攻と副専攻を選択するという〈主専攻・副専攻〉学修システムを導入することで、一人ひとりの目的や関心、取得しようとする教員免許に応じて、さまざまな学びのかたちが実現します。

「教育の専門職」を養成する実践的教育

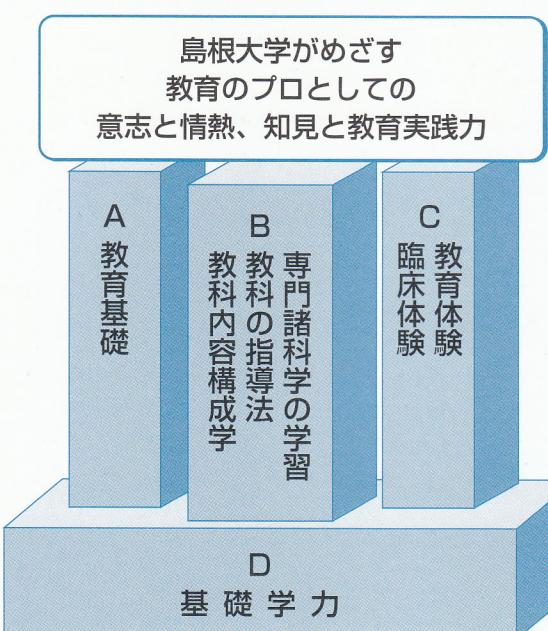
教育の現代的課題に対応するためには、社会人としてのバランスある成長と即戦力としての多様な体験に裏打ちされた教育的実践力が欠かせません。そのため、その基礎となる知的能力や幅広くひらかれた教養の獲得はもとより、教育のプロとしての自覚と社会的役割の認識に基づいた教職マインドの育成、「教えるべき内容」の体系的な学習と教科の指導法についての理解に支えられた科学的思考力と探究心の育成、子どもとの直接的なふれあいを通した子ども理解と実践的経験の蓄積を目指し、学校教育のさまざまな問題に、適切かつ柔軟に対応できる教育実践力を高めていきます。



学校ビオトープづくりに子どもたちと取り組む学生たち

■時間換算制「体験学修」の必修化

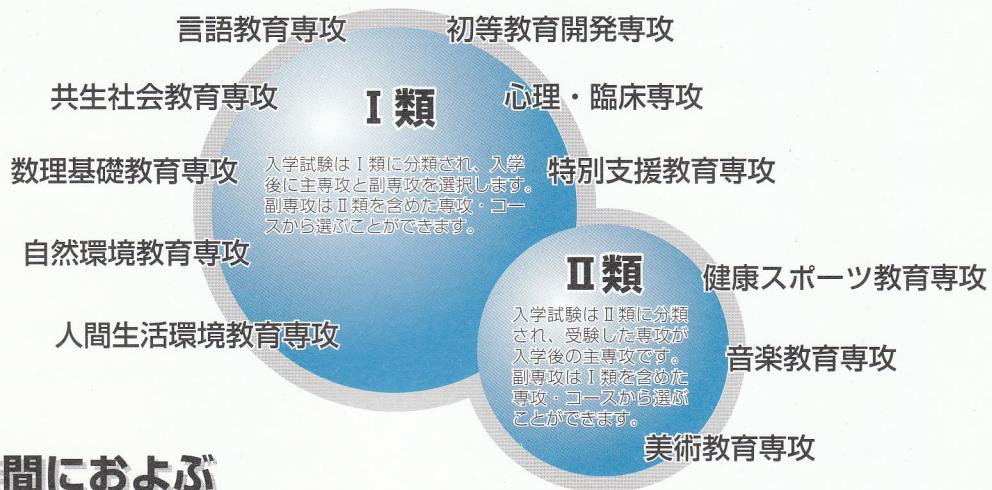
子どもとふれあう生きた体験学修を重視して、学校教育外での教育・指導体験を中心とする「教育体験活動」、「心理臨床・カウンセリング体験」、附属学校園における教育実習を中心とする「学校教育体験」の総計1,000時間の体験学修プログラムを必修とし、多様な体験活動に裏打ちされた教育実践力の向上を図ります。



通学合宿事業で子どもたちと一緒に夕食をつくる学生たち



複数の得意分野を持つた教師の育成をめざして



全国初の1,000時間におよぶ体験学修の必修化

教育基礎体験

子ども体験活動
社会体験活動
科学・芸術等臨地体験

400時間

心理臨床・カウンセリング体験

カウンセリング実習
特別支援教育体験
不登校児等指導体験

200時間

学校教育体験

教育実習体験
特別支援教育体験

400時間

- 学校という実際の場で、教師としてどのように子どもや保護者と接していくか？どのように教育活動を実践する？どのように子どもたちの心の相談に応えるの？
- 理論的な学修中心という従来の教師教育の限界の中で、卒業を目前にした教育学部生、あるいは新任の先生の多くが、このような実践的かつ臨床的な具体的問題に悩んでいます。体験学修の必修化によって、大学での教師教育は大きく変わります。
- 豊かな体験活動とその省察に裏付けられた確かな実践知を築き、高度の教育実践力を培うこと、それが「全国で初めて教員養成に特化した」私たちの教育学部の理念です。

現在、附属学校・園での教育臨床体験や三瓶山合宿による共同体験活動、福祉施設での介護ボランティアや学童保育などのさまざまな体験学習が実施されています。地域や学部、専攻と連携した体験学修認定の活動が今後ますます増えることで選択肢も広がり、幅広い体験が展開します。

新教育学部の一期生、平成16年度入学生の出身地域と主専攻・副専攻は次の通りです

表1-1

性別	実数	比率
男 性	68	34.7
女 性	128	65.3
合計	196	100

表1-2

出身地	実数	比率
千葉県	1	0.5
静岡県	1	0.5
愛知県	2	1.0
富山県	2	1.0
石川県	1	0.5
京都府	1	0.5
兵庫県	9	4.6
大阪府	6	3.1
和歌山县	1	0.5
岡山県	25	12.8
広島県	20	10.2
山口県	5	2.6
鳥取県	39	19.9
島根県	62	31.6
香川県	5	2.6
愛媛県	4	2.0
徳島県	1	0.5
高知県	1	0.5
福岡県	3	1.5
佐賀県	2	1.0
大分県	1	0.5
長崎県	4	2.0
合計	196	100

表1-3 主専攻及び副専攻(人)

専 攻	副		主 専 攻												合 計		
			初等教育開発	心理・臨床	特別支援教育	言語教育	言語教育・国語	共生社会教育	数理基礎教育	自然環境教育	人間生活環境教育	音楽教育	美術教育	健康・スポーツ教育			
主専攻	副専攻	小学校				4	7	5	10	4	2	6	8	10	56		
			初等教育開発	幼稚教育Ⅰ	25	3	6									34	
				幼稚教育Ⅱ				2	1		1	2	2		2	10	
主専攻	副専攻	心理・臨床				2	1		1		1	2	1			8	
				特別支援教育		4	2		2	1		1		2		12	
						5	3	1								9	
主専攻	副専攻	言語教育				10	1	1	1				2		1	16	
				共生社会教育Ⅰ	3	2		3					3		1	12	
				共生社会教育Ⅱ				1		6						7	
主専攻	副専攻	数理基礎教育				1	1	1								1	4
				自然環境教育		1	1	1			1		2			6	
						1	1	1				2				3	
主専攻	副専攻	人間生活環境教育				1		1		2			1			4	10
				技術教育												6	
				家政教育	1		1		2	1	1					3	
主専攻	副専攻	音楽教育				3	1	1				1					6
				健康・スポーツ		2								1		3	
				合計		55	14	14	12	12	14	12	10	6	19	9	19

「きわめて高い、教職への意欲!!」が明らかに

平成16年度入学生（1年次）教育実践プログラム
「学校教育実践研究Ⅰ」と「学校教育実習Ⅰ」参加者の声から

「教育支援センター・学校教育体験領域専門部会」の調査報告から

■教職への志向とプログラムへの取り組み方

1. プログラムへの評価は非常に高く、9割近い者が充実感を感じている。
2. 入学当初に専攻・校種の希望が明確であった者は8割を越えている。
3. プログラムを通して入学当初の希望を強化した者は53.9%、希望が明確になった者は9.9%、当初の希望と異なる専攻・校種選択をした者は8.4%であった。
4. 主専攻で違いはあるが、2つのプログラムによって教職志向を強化した者は60.6%にのぼる。
5. 入学以前から教職志向が高い者は50.3%、2つのプログラムを通して教職志向が明確になった者は8.8%であった。

■「学校教育実践研究Ⅰ」及び「学校教育実習Ⅰ」で学んだこと

1. 学校教育実践研究Ⅰでは、「協同性」、「授業観察スキル」、「自己表出スキル」の3点が抽出された。
2. 学校教育実習Ⅰでは、「協同性」、「規律性」、「授業観察スキル」、「自己表出スキル」、「身体性」の5点が抽出された。

■2つのプログラムの達成感と学生の類型化

1. 2つのプログラム全体で、「達成感」に係る評価の4因子（協同性、反省性、積極性、教職への意欲）が抽出された。
2. この4因子に基づいて類型化したところ、すべての因子に高得点を示す者（61名）、中位の者（80名）、低位の者（52名）に類型化できた。

■達成感の違いと教職への志向

1. 2つのプログラムの終了時点で、「教職に就きたい」と思っている者は60.6%、迷っている者は30.6%、就きたくないと思っている者は8.8%であった。
2. この結果と、先の達成感に係る高位群、中位群、低位群とをクロス集計したところ、高位群ほど教職志向が高い傾向が見られた。
3. しかし、達成感の中位群、低位群にも、教職志向の高い者が高い比率を占めており、達成感と教職志向とが必ずしも線型の関係に無いことが判る。

プログラム終了後の「教職志向」

2つのプログラムを終えたいま、あなたは「教師になりたい」と考えていますか？	初等教育開発	心理・臨床	特別支援教育	国語教育	英語教育	共生社会教育	数理基礎教育	自然環境教育	家政教育	音楽教育	美術教育	健康・スポーツ	実数(人)
													合計
(1) はい	50	1	8	8	5	9	12	6	2	4	2	10	117
(2) 迷っている	5	8	6	2	7	2		4	2	11	5	7	59
(3) いいえ		4		2		3			1	3	2	2	17
合計	55	13	14	12	12	14	12	10	5	18	9	19	193
比率(%)													
(1) はい	90.9	7.7	57.1	66.7	41.7	64.3	100.0	60.0	40.0	22.2	22.2	52.6	60.6
(2) 迷っている	9.1	61.5	42.9	16.7	58.3	14.3	0.0	40.0	40.0	61.1	55.6	36.8	30.6
(3) いいえ	0.0	30.8	0.0	16.7	0.0	21.4	0.0	0.0	20.0	16.7	22.2	10.5	8.8
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100.0



平成16年度 教育学部後援会幹事名簿 (20名/順不同)

地 区	氏 名	課程・学年	学生氏名	備 考
松江市	香川 昌人	学年4	川 健一	副会長
//	藤田 雄行	学年4	藤田 毅子	
//	若槻 広司	学年4	若富 敬明	会計幹事
//	富永 博	生涯4	永宏 彩子	
岡山県	今石 渡	生涯4	石之さ子	
松江市	佐藤 雄史	学生3	佐藤 順和	監事
//	佐藤 司	生涯3	佐藤 つば	会長
八束郡	山本 浩美	生涯3	山本 順和	
八境港市	石本 英俊	生涯3	石本 つば	
松江市	西尾 健二	学生2	西尾 菜穂子	監事
//	小村 司	生涯2	小村 志帆	
//	石橋 刚一	生涯2	石橋 美麻	
八束郡	松本 徹也	学生2	松本 敬美	
能仁郡	宮塔 一也	生涯2	宮塔 美奈子	
米子市	吉田 章一	生涯2	吉田 理恵	
松江市	黒田 徹	学校教育1	黒田 達也	
飯石郡	堀江 安治	学校教育1	堀江 智史	
松江市	飯塚 男子	学校教育1	飯塚 平洋	
//	根茂 雄	学校教育1	根茂 舞	

課程名の正式名称は以下の通りです。

- 学教** 学校教育教員養成課程
- 生涯** 生涯学習課程
- 生活** 生活環境福祉課程
- 学校教育** 学校教育課程

(学校教育課程は平成16年度から)



平成16年度 教育学部後援会予算の概要

科 目	予算額(円)	摘 要(主な使途)
I 会務費	300,000	会議費
II 学生指導関係費	600,000	
課外活動援助費	125,000	引率旅費、中国五大学競技大会補助
学生指導費	475,000	大学祭補助、学生寮援助費、学生交流補助
III 進路指導費	200,000	
旅費	60,000	教員採用等に係る訪問旅費補助
就職対策費	140,000	教員採用試験対策・公務員・企業模擬試験等
IV 教育実習費	680,000	教育実習協力校経費
V 学部充実実施費	780,000	
施設・環境整備費	400,000	花壇等の構内環境整備(本年度新規項目)
涉外費	380,000	各関係機関等との折衝・学部説明会
VI 国際交流関係費	300,000	釜山教育大学(韓国)、浙江大学(中国)との交流事業
VII 広報誌発行費	500,000	機関誌発行(本年度新規項目)
VIII 予備費	85,000	
合 計	3,445,000	

編集後記

教育学部後援会から、「後援会誌創刊号」をお送りします。平成16年度は、島根大学教育学部にとって歴史的な一年でした。国立大学の法人化により、国立島根大学は「国立大学法人島根大学」となりました。「法人」という言葉が挿入されただけに見えるこの変化は、実際には「激変」を意味しています。また全国的な教員養成学部再編の動きの中で、島根大学教育学部は、いち早く教員養成特化型の学部つくりに取り組みました。「1000時間体験学修」の導入や「教育支援センター」の創設など全国の教育学部が注目する斬

新な改革が準備されました。しかし、その成否は、ひとえに今後の取り組み如何にかかっています。法人化と学部改組、この二つの難題を乗り越えるために教職員一同、最大の努力を傾注する所存です。▼次号以降、本機関誌上において学生諸君の大学生活、活躍の様子を豊富に掲載していきたいと考えております。▼どうか会員の皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。(事務局)



発行：島根大学教育学部後援会

発行日：平成17年3月15日

発行所：島根大学教育学部内
教育学部後援会事務局

所在地：〒690-8504
松江市西川津町1060
TEL. 0852-32-6251
FAX. 0852-32-6259

印 刷：株谷口印刷

おまかせ下さい!!

企画・デザイン・撮影から、印刷に関わるetc
また、ホームページ、CD-ROMのご相談もお気軽にお問い合わせください。

 株式会社谷口印刷

TANIGUCHI PRINTING CORPORATION

〒690-0133 島根県松江市東長江町902-59(朝日ヒルズ工業団地)

TEL (0852) 36-5888 (代) FAX (0852) 36-5889

E-mail:admin@tprint.co.jp http://www.tprint.co.jp